

「市民フォーラム がんばってますネ おかあさん—母子保健医療システムの復興に向けて—」 が石巻で開催されました(2013/2/09)

場所：石巻グランドホテル

テーマ：東日本大震災からの母子保健医療システムの復興

平成 24 年厚生労働科学研究費補助金事業 「震災時の妊婦・褥婦の医療・保健的課題に関する研究」班（研究代表者：岡村州博先生（東北大学名誉教授・東北公済病院院長））主催にて、石巻市民フォーラムが、2 月9日土曜日に石巻市で開催されました。後援として災害科学国際研究所に加わっていただきました。災害医学研究部門・災害産婦人科学分野の伊藤潔教授が、班研究の分担研究者として、当日の司会を研究代表者の岡村州博先生と勤めました。参加者は、小さいお子さんをお持ちのお母さん方を中心に、医療従事者の方、マスコミ関係の方など 44 名のご参加をいただきました。

厚生労働省 雇用均等・児童家庭局 母子保健課課長 桑島昭文様からご挨拶いただいた後、下記の方々のご講演がありました。

1. 助産師の教育で、長年、指導的立場にあった東北大学医学部保健学科教授 佐藤喜根子先生から、妊婦さんへのアンケート調査と直接インタビューの結果をもとに、震災直後の妊婦さんの動向についてお話しいただきました。
2. 保健師の教育で、長年、指導的立場にあった東北大学地域保健支援センター教授 平野かよ子先生から、現場で、もどかしく思いつつも頑張った保健師の活動を中心に、災害時の母子保健活動についてお話しいただきました。
3. 災害時、障害のあるお子さんの支援活動にたずさわってこられた、東北大学小児科准教授 田中総一郎先生から、災害弱者である子どもたちの安全をどう守るか、その活動について、特に障害のあるお子さんをいかに守るかという視点を中心に、詳細なお話をいただきました。
4. ご自身の経験に基いて、災害時、妊婦であった方々の支援活動を展開しておられる、特定非営利活動法人ベビースマイル石巻 代表 荒木裕美様から、石巻で「今、おかあさんは何を考える」かについて、現場の生の声やベビースマイル石巻の取り組みについて、貴重なお話をいただきました。
5. 災害時、大学病院の周産母子センターで奮闘された東北大学東北メディカル・メガバンク機構教授 菅原準一先生から、主に宮城県の医療機関の対応と今後の取組みについて、近未来まで見据えたお話をいただきました。
6. 指定発言として、岩手県、福島県の現状報告がありました。岩手県立大船渡病院副院長 小笠原敏浩先生から、災害にも対応できる岩手県周産期医療情報ネットワークシステム「いーはとーぶ」の話、福島県立医科大学産婦人科学講座教授 藤森敬也先生から、原子力災害を受けた福島県での周産期医療状況調査の話をしていただきました。

講演終了後に質問用紙を回収し、講演者の方々に答えてもらいましたが、非常に多岐にわたる質問が寄せられ、予定終了時間を 30 分以上超過してしまいました。現場の生の声を含め、貴重な意見交換の場が得られ、今後の母子保健医療システムの復興を实践する上で、有意義なフォーラムになったと思います。



司会をつとめる伊藤教授



会場の様子

文責：伊藤潔（災害医学研究部門）